

日本山岳会 茨城支部 講演会 (第 74 回)

この講演は、当初は令和2年4月に予定されていましたが、コロナ禍で延期されたものです。
内容は、以前の(令和元年9月)「白山山中での昔の暮らしと、かつての白山信仰」の続きです。

講演標題

『神仏習合の面影を今に残す五箇山白山宮「33 年御開帳・式年大祭」の報告』

講師

日本山岳会(茨城支部)会員 長岡正利(内容についてのお問い合わせは nagaoka@almond.ocn.ne.jp)

日 時：令和4年9月10日(土) 午後1時30分～3時頃 (受付は13時10分から) 五箇山各聚落からの祝賀・ご祝儀の人達

場 所：JR土浦駅(上野駅から1時間)西口前「土浦市役所」(URARAビル)5階「県南生涯学習センター」内、小講座室 No. 2

入場は無料です。どなたでも、どうぞお越し下さい。当日の会場へのご連絡は、Tel. 029-826-1101：茨城県南生涯学習センター
山岳会以外のご参加皆様(10人程度限定)は、事前に、上記演者あてメールで、または、次記の事務局高木宛に電話またはFax.ご連絡をお願いします。

主 催：日本山岳会 茨城支部／お問い合わせは、日本山岳会茨城支部・事務局 高木康雄 あて：Tel./Fax.029-872-5476

石川・福井・岐阜県にまたがる白山は、伝承に拠れば、越前の修験僧・泰澄が養老元(717)年に開山したとされ、それから1300年目の2017年には、福井・石川・岐阜県などの関係各地で「白山開山1300年祭」が華やかに催されました。古来の白山信仰(白山修験)は、天台密教系の、神仏習合のかたち(十一面観音菩薩を本地仏とし、その垂迹神が白山妙理大権現)でした。しかし、全国における同様に、慶応4(1868)年3月の神仏判然令(分離令)によって、神社と寺院の分離独立とその僧侶の還俗や、仏像を御神体とすること等も禁じられました。一方では、五箇山の白山宮(富山県南砺市上梨)では、神社ではあるものの、その「ご本尊」には「秘仏・十一面観音菩薩」があつて、近年は33年ごとに「ご開帳」がおこなわれてきました。ここでは、その2019(平成31)年5月のもようを、多くの写真で紹介します。

この白山宮は、伝承に拠れば、白山開山の泰澄が人形山に白山菊理媛命を勧請・建立したものといわれ、後に、現在のの上梨聚落に移設して、文亀2(1502)年に再建されたもの(棟札の記述による)で、国指定の重要文化財です。



御開帳の早朝に、拝殿と本殿鞘堂板戸を開放。
右は、本殿正面上の、鎌倉時代初期の様式の蛙股。

白山宮の鳥居前には御開帳標札と、重文説明にも「33年御開帳」の旨が。



御開帳が始まって、五箇山各聚落からの獅子舞が次々に奉納される。

拝殿では、子供達による「こきりこ踊り」を奉納。

上梨地区の人達が、正装で、次々に御開帳を拝観。右仮設では宝物展示。

国重文「合掌造り/村上家」での「こきりこ踊り」(ご開帳とは別機会)

ご開帳については、養老元年の泰澄による創祀と伝わる平泉寺白山神社でも33年ごとに行われてきており、その次回は2025年です。一方では、若き日の泰澄が遙かに白山を望んで登峰・開山を志したと伝わる越知山大谷寺(富山県越前町)でも、15年前後の間隔をおいてのご開帳が行われて来ています(前回は2019年11月2-4日)。

白山宮の秋季例大祭(右の写真)は毎年9月25・26日で、行政側による「こきりこ祭り」も同日です。

お祭りでは、「ご開帳」の行事以外は、ほぼ同じものが見られます。平泉寺白山神社のご開帳ともども、皆様、どうぞお越し下さい。



例大祭当日お昼の奉納踊りと、昔からと同様に、夜の訪れと共に始まる五箇山白山宮の秋祭り